

No. J2311 エネルギー資源をめぐる日中関係史 —上海と漢口における石炭貿易を中心に（1840～1937）—
東京大学人文社会系研究科 張珺
活動の1年目は、寧波・上海・南京における史料調査を中心に研究計画を遂行した。 寧波では、現存する中国最古の書庫である天一閣や、日本とのゆかりが深く、日本曹洞宗の祖庭である天童寺、中国の海外貿易の玄関口である港町寧波の歴史を紹介している寧波博物院も訪れた。現地調査のみならず、近代上海で石炭貿易に従事していた中国商人がほとんど寧波出身であるため、彼らの情報を調べるために、寧波市檔案館で史料調査を行いました。石炭商人や石炭同業組織に関連する史料の有無を確認し、必要な情報を書き写しました。これからは、以上の史料の整理と解説に取り込んでいきたいと思う。 上海では、上海交通大学・上海市図書館・上海市檔案館などの所蔵資料について調査を行った。主に近代上海石炭市場の中心的な勢力である上海市煤業同業公会に関連する史料を閲覧し、数多くの未利用の史料を発見した。同公会と他団体とのやり取りや社会活動への参与に関する記録、同公会内部における紛争解決に関する記録、また会員名簿や会議記録などの数多くの史料が挙げられる。これらの史料は、近代上海石炭市場における日中石炭貿易に参加していた人々の実像を解明するために非常に重要な情報を提供していると考えられる。これからは、以上の史料を整理し、解説していく作業を進めていく。 南京では、南京第二歴史檔案館を中心に史料調査を目指したが、予約困難のため、実際に調査できる時間は限られた。ただし、1930年代における日本炭のダンピング問題に関する未公刊史料の存在が確認できた。機会があれば、再び南京で調査するつもりである。 今年度の活動の主な成果については、2023年5月27日、福岡で開催された第92回社会経済史学会全国大会において、「近代中国における日本石炭のダンピング問題及びその対策—1930年代前半期の上海市場を中心に」というテーマについて報告した。2023年7月、中国社会科学院の学術雑誌『近代史研究』2023年第4期で、「近代上海市場的中外煤炭競争」という論文を発表した。